

春が来て想う事

『やり切る事』の重要性



高井法博会計事務所

所長 高井 法博

春が来て、私の家の廻りの田の土手では、土筆が芽を出している。街では卒業式が、そして高校や大学の入試発表が行われ、職場でも新入社員が入ってくる季節となった。何か新しい息吹を感じさせてくれる時期である。

私達も何年か前に学校を出て同じような立場で、社会に出て来た事を思い出す。昨年末母校である高校で全校の同窓会を開催し、1300名近い先輩や後輩に集まって頂く事が出来た。この実行運営は、毎年42才になる学年の者が、厄払いをかねて担当する事となっており、私も役員の一人として参加させて頂いた。この実施の為に、数年も前から準備にとりかかり、この日を迎えるのであり、大変な時間と労力を投入する。しかし、何よりもの収穫は、卒業してから24年も経って、母校の為に奉仕出来る最初で最後の機会であり、又同窓生約530人と連絡をとり合い、分担し合いながら進めて行く過程の中で、青春の血をもう一度湧かせ生涯の友情を作りあげて行く事にあると思う。18才で卒業し、

24年の間に色々な出逢い、職業、結婚、その他色々な環境、風土、体験の中からその人々の人格人生を作ってきた。人それぞれ様々な考えがあるが、高校時代とても明るく人付き合いが良かった者が、この行事そのものに異論をはさみ、全く協力してくれない人もいる。又、数人の大成功している経営者にも、逢い、色々な話しを聞いた。そして、こういう方々に共通して感ずることは、『一つの目標を持ち、決して諦めないで最後までやり切っている者』であるということだ。ただそれだけの事のような気がする。これは最初はそのほんのチョットした差であっても、長い年月では大きな差が付き、他の者では追い越す事は不可能になってしまう。大多数の者も、一応強弱の差、高い低い差はあるが、目標は持つ。しかしながら、途中において色々な障害が起こり、なかなか目標が達成出来ない。するとその出来無い原因を探してくる。不達成の原因など、最もな理由があるに決まっている。人間と言うものは、絶対に自分が悪いな

どと思わない動物なのである。必ず自分以外の何かが悪い、と言うに決まっている。言い訳の理由など五万とある。これは、個人でも経営者でも全く一緒である。例えばダメな経営者と逢うと気候が暑かった、寒かった、雨が降った降らなかった。競合店の特売、出店消費税、円高円安……。社員も、商品が、会社が、社長が、社会が悪い、自分と相性が悪い等々……。原因は、誠に最もなものが多い。このような理由をつけて自分自身を自己弁護し、何とか正当化しようとする。そして『マア、イヤ』と諦め、人生を右往左往する人が如何に多い事か。目標を立てても、それを達成出来無い理由をあげて否定している。目標達成など夢の又夢である。否定する為の目標など始めから無い方が良いと思う。如何なる理由があろうと不達成は、容認出来ないのだ。あくまでも目標があればこそ大切な事は、目標を達成することであり、不達成の原因を追求するのは、全くの論外である。目標達成に必要な考え方は、『どうしたら目標が達成出来るか』と言う『対策』なのである。天気とか、他店の特売なんて諦めさせる事は出来ないのである。職業を、『ありもしない自分の相性』と考えるのが誤りである。生かされていることへの感謝報恩の手段と寛悟し職業を行う者は、如何なる場でもビクともしない。根底にこの考えを置いて事業を展開しておられ、又、タクト経営研究会でも、お招きし講演をして頂いた、長太郎グループ

の、滝口長太郎氏は、自分の信条を次のような詩にしておられるので皆さんに紹介をさせて頂きます。

『打つ手は無限』

すばらしい名画よりも

とてもすてきな宝石よりも

もっともっと大切なものを

私は持っている。

どんな時でも

どんな苦しい場合でも

愚痴を言わない。

参ったと泣きごとを言わない。

何か方法はないだろうか

何か方法はあはずだ

周囲を見回してみよう

いろんな角度から眺めてみよう。

人の知恵も借りてみよう。

必ず何とか なるものである。

なぜなら打つ手は常に

無限であるからだ。

私自身、この詩を名刺サイズにタイプし更にラミネート加工をし、いつも胸のポケットに入れ色々つまづいた時、悩みくじけそうになった時、これを読み、自分自身に言い聞かせている。世の中、問題が無いのが問題である。問題があるのが当たり前で、要はその問題を如何に創意工夫し解決して行くかにあると思う。どうか『正しい目標』で『誤っていないのなら』『最後までやり切って』頂いて、大成功を勝ちとって頂きたいと思う。